

「二十日大根は本当に二十日でできるのか」

熊本市立西原小学校 6年 西田 帆希

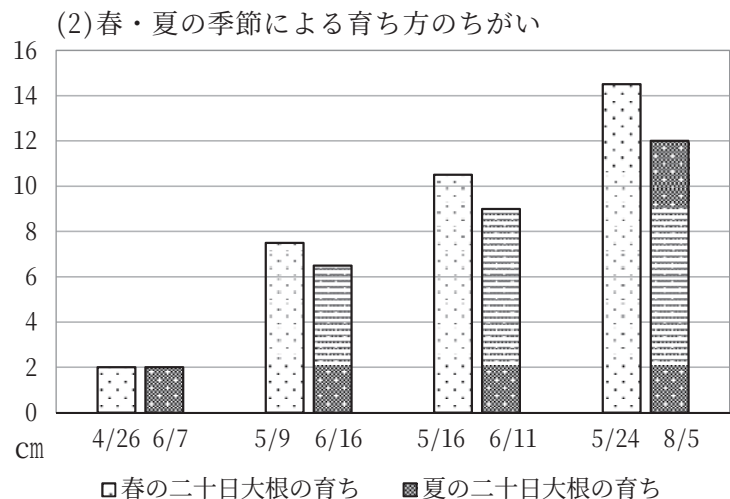
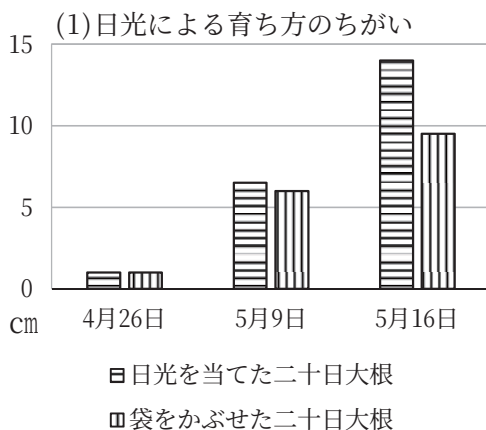
1 研究の目的

二十日大根は本当に二十日でできるのか、どう育つのかなど疑問に思い、日光による育ちの違いや春と夏の育ちの違いを調べてみた。

2 研究の方法

- (1) 日光を当てたプランターの二十日大根と袋をかぶせ日光を制限したプランターの二十日大根の育ちの違いを毎日観察し記録する。
- (2) 二十日大根の春と夏による育ちの違いを毎日観察し記録する。
- (3) 発芽直後と2週間後の葉のヨウ素でんぷん反応の違いを記録した。

3 研究の結果



4 研究の考察

- (1) 日光に当てた方がよく育つのではと予想した。全体的には日光に当てた方がよく育った。二十日目、幅5mm、長さ3cmの細長い実ができていたが、まだまだ食べられなかった。5月16日までは、日光に当てた方が袋をかぶせた二十日大根よりよく育った。
- (2) 私は、春よりも夏の方が気温が高いのでよく育つのではないかと予想した。春と夏の成長の違いを1週間ごとに棒グラフで表すと、春の方が生育がよかった。今年の夏は特に暑く育たなかったと推測した。二十日大根は、春の気候の方が適しているようだ。私はぴったり二十日でできると予想したが、実際は植えてから29日で食べられるくらいの幅2cmくらいの実になることができた。二十日大根は二十日ぴったりでは収穫できなかった。
- (3) 発芽後は養分を使い切って葉にでんぷんはないと予想した。発芽後2週間たったころの葉は日光を浴びてでんぷんはできていると予想した。発芽直後はでんぷんはできていなかったが、発芽後2週間の葉にはでんぷんはできていた。日光に当たるとでんぷんができることが分かった。